



## 追悼文

### 故 小林寛伊先生 を偲んで

東京医療保健大学 名誉教授／医療法人 平岩病院  
大久保 憲

2018年8月13日午後8時5分にご逝去されました。

わが国においていち早く感染制御の必要性を認識され、自ら英国をはじめ諸外国での状況を学ばれて、日本環境感染学会をはじめ感染制御に関する多くの学会やセミナーを育てられました。

入院直前まで学会活動やご講演をなされて生涯現役を貫かれました。ご逝去直前の2018年5月25日韓国ソウルでの東アジア感染制御カンファランス（East Asian Conference on Infection Control and Prevention: EACIC）における特別講演、6月2日日本医療機器学会の教育講演、7月14日には感染制御に関するセミナーでの総括発言などです。その後7月16日早朝に緊急入院され、以後軽快退院されることはありませんでした。

#### 1. 小林寛伊先生のご経歴を紹介いたします。

先生は1963年3月に東京大学医学部医学科を卒業後は、1964年に胸部外科学講座に入局され、1969年2月に医学博士（東京大学 博医第191号）を取得後、1973年に中央手術部へ移られました。1977年に医学部助教授、中央手術部副部長を歴任され、1981年ロンドンのCentral Public Health Laboratory, Division of Hospital Infection への留学と感染制御の道を歩んでこられました。1994年6月に東京大学教授医学部感染制御学講座として日本で初めて感染制御を標榜する講座を創設されました。

1996年定年ご退任後、関東通信病院（現 NTT 東日本関東病院）院長を経て、2002年に名誉院長にご就任されています。その後、東京医療保健大学の設立にご尽力され、2004年11月からは同大学初代学長にご就任され、2007年からは同大学大学院の研究科長も務められました。この間一貫してわが国の感染制御の発展に努めてこられました。

## 2. 各種学会活動に積極的な関わりがありました。

日本手術医学会は1964年に国立大学医学部附属病院手術部協議会として設立され、手術部研究会(1979～1982年)を経て1982年に「日本手術部医学会」と名称変更されました。1993年には本学会は、テクノロジーの追求のみならず学問としての手術医学を追求すべきであるとする小林先生の強い信念にて学会名が現在の「日本手術医学会」へと名称変更されました。小林先生は、当時としては世界的にも新しい分野である病院感染制御学における草分けとして手術医学の中に感染制御の精神を植え付け、わが国の感染制御学の基礎固めとして学問体系の確立にご尽力されました。院内物流システムの開発と構築、医療用不織布の開発、物品管理のためのバーコードおよび二次元コードの研究、手術器械のコンテナシステムの実現、手術時手洗いのラビング法への変更、その他中央材料部における滅菌供給部門の質の向上に力を注がれました。

医療系の学会の要職としては、日本手術医学会理事長、日本環境感染学会理事長、日本医科器械学会理事長など数多くの学会におけるリーダーとして、わが国の感染制御の発展に貢献されてきました。一方、国際的にはEast Asian Conference on Infection Control and Preventionの創設、英国Hospital Infection SocietyのEditorial Adviserとして、また米国The Society for Healthcare Epidemiology of Americaの会員として、小林先生の活躍は欧米においても高く評価されてきました。

## 3. 行政へのご貢献

厚生労働省の院内感染対策有識者会議ならびに院内感染対策中央会議の座長として2005年1月から2015年2月まで、わが国の感染制御のシステムの確立のために力を注いでこられました。国の感染制御に関するグランドデザインの策定や提言作りを通して、わが国が進むべき道筋を明らかにされてきました。

## 4. 数々の専門誌の創刊

創刊にご尽力された書物も数多くあります。

「The Journal of Healthcare-associated Infection」

「感染と消毒」

「インフェクションコントロール」

「病院サプライ」

「感染制御」

などの各誌です。

## 5. 雑誌「医療関連感染」(The Journal of Healthcare-associated Infection: JHAI)に残された小林先生の想い

2008年7月5日に創刊号が刊行されました。東京医療保健大学大学院において小林先生のご指導にて開講した感染制御学領域、滅菌供給管理学領域、周手術医療安全学領域の3つの分野での研究をまとめて機関誌として発行されたものです。したがって、大学院修了者が執筆した大部分の論文が掲載されてきました。

原著、短報、報告、文献分析、速報、その他で構成されています。

創刊にあたって、小林先生が書かれた巻頭言には以下のように記載されており、先生の思いが

ひしひしと伝わってきます。

#### <巻頭言 JHAI 誌 2008; 1(1) >より

「東京医療保健大学大学院医療保健学研究科感染制御学では、公開講座を企画し「感染制御の歩む道」と題して東京ステーションコンファレンスにおいて開催することになりました。専任教育職員および大学院前期院生の全員が講演集を当日配布できるように企画しました。その企画段階において講演集を後世に残せるものにしたいたいと考えて感染制御に関する定期刊行物にしてはどうかという決意で JHAI 誌が刊行されることになりました・・・」。

「この JHAI 誌が近い将来、専門誌として原著論文の掲載に関して高い水準を得られるか否かは別問題としても、英文誌としての道をも歩んでいくことができれば、国際的にも評価される日本の感染制御に関わる情報誌として認識されていくことが可能でありましょう」と、本誌刊行の決意と将来の展望を巻頭言の中で述べられています。

JHAI 誌を支える東京医療保健大学の大学院生に対して修士コースは2年間で、博士コースは3年間という限定された期間でテーマを選択し、研究をおこなって論文をまとめる作業は決して楽なものではありません。適切な指導教員の下に初めの半年間は文献検索と文献考察に時間を費やし、壁に当たるごとに何度もスタート時点に逆戻りしながら、指導者とともに研鑽して研究の方向性を導き出すことに費やされる期間を過ごします。特に本学の大学院生は、医療系の学生からの継続進学ではなく、再教育社会人が対象となっている教育課程が中心となっていることもあり、人生経験は豊富でありながら、研究生活には今一つどっぴりと専念しにくい環境でもあります。

小林先生は、「院生がよくここまで業績を残してきたと、ただただ感心し、感激する」との感想をお持ちで、そして、研究者に対して「研究分析すべき対象が、明確な結論を導き出せるテーマを選ばなければなりません。広い視野で実行可能な研究課題を模索し、研究者個人に適した選択を指導することが不可欠である」と指導する側の責任の重さを自らに課しておられました。

さらに「大学院在学中という限られた期間にまとめ上げなければならないという必須条件下において、作成された論文は、それを広く発展、展開していくのは学位取得後の人生においてなすべきことであり、日常業務の中に研究的視点を維持し続けることで人生を謳歌することにつなげてほしい」と研究者の未来へ大いなる期待を寄せていらっしゃいました。

東京医療保健大学大学院の将来については、医療機関や医療関連企業に勤務する社会人再教育に門戸を開くことが大切で、社会において才能を秘める人材を発掘して、再勉学の機会を大学が提供し、医療分野における患者サービスの質の向上にこれからも貢献を続けていくことができれば、小林先生のご意志に報いることに繋がるのではないのでしょうか。

この様に色々なことを思い出していると、これまで様々な状況で先生のエネルギーに圧倒されてきた感が拭えません。先生の志を受け継ぎ後世に伝える所存です。どうぞ安らかにお眠りください。

## 6. 経 略 歴

- 1963年 3月 東京大学医学部医学科卒業  
 1964年 4月 胸部外科学教室（木本外科）入局  
           東京大学大学院医学系研究科第三臨床医学専門課程博士課程入学  
 1969年 2月 医学博士（東京大学 博医第191号）  
 1977年 7月 東京大学助教授医学部 東京大学医学部附属病院中央手術部副部長  
 1981年 2月～3月 Central Public Health Laboratory, Division of Hospital Infection, London  
 1990年 7月 東京大学医学部附属病院材料部副部長  
 1991年 1月 東京大学医学部附属病院院内感染対策部部長  
           4月 東京大学医学部附属病院に ICT を組織、全病棟ラウンド開始  
 1993年 5月 東京大学医学部附属病院材料部部長  
           9月 東京大学教授医学部 東京大学医学部附属病院感染制御部部長  
 1994年 6月 東京大学教授医学部感染制御学講座  
 1996年 3月 東京大学定年退職  
           4月 関東通信病院病院長  
               関東通信病院附属医用情報研究所長  
               関東通信病院附属高等看護学院長  
 2002年 3月 NTT 東日本関東病院病院長定年退職  
           4月 NTT 東日本関東病院名誉院長  
 2005年 4月 東京医療保健大学教授 学長  
 2013年 3月 東京医療保健大学教授 学長任期満了  
           4月 東京医療保健大学 名誉学長  
               東京医療保健大学大学院医療保健学研究科 研究科長  
 2016年 3月 東京医療保健大学退職  
           4月 根岸感染制御学研究所所長

## 7. 賞

- 1982年度 日本医科器械学会論文賞  
 小林寛伊他：Coated Polyglactin 910（合成吸収性縫合糸）に関する基礎的ならびに臨床的検討、医  
 科器械学雑誌 1981;51:576-581  
 1993年度 日本医科器械学会著述賞  
 小林寛伊、細瀬一成：医療廃棄物・誤刺による感染防止対策、東京：廣川書店 1992  
 1994年度 日本医科器械学会著述賞  
 小林寛伊他 編：医療用不織布ハンドブック、東京：南山堂 1994  
 2001年度 日本医科器械学会特別著述賞  
 小林寛伊 編：医療現場の滅菌、東京：へるす出版 2000.  
 2001年度 日本医科器械学会功労賞  
 2003年 10月 8日 The Kilmer Memorial Award 2003  
 2015年 5月 12日 山上の光賞（第1回）

## 8. 主な関連学会

- 1) 日本環境感染学会  
     評議員（1986年1月～）  
     理事（1986年1月～1996年2月、1998年2月～2002年2月）  
     1988年第3回大会会長  
     監事（1996年2月～1998年2月）  
     理事長（1998年2月～2002年2月）  
     教育施設認定委員会委員長（2001年2月～2013年2月）

- 教育施設認定委員会委員 (2013年2月～2017年2月)  
 消毒薬評価委員会委員長 (2010年9月～2017年2月)  
 名誉会員 (2017年～)
- 2) 日本手術医学会
    - 評議員 (1979年10月～)
    - 常任理事 (1979年10月～)
    - 理事長 (1993年10月～2001年11月)
    - 1993年第15回大会会長
  - 3) 日本医科器械学会／日本医療機器学会
    - 評議員 (1976年5月～)
    - 理事 (1994年5月～2000年6月)
    - 理事長 (1996年5月～2000年6月)
    - 1998年第73回大会会長
    - 医療用不織布研究会委員長 (1990年6月～1994年5月)
    - 職業感染防止委員会委員長 (1995年5月～1996年5月)
    - 滅菌技士認定委員会委員長 (2000年4月～)
  - 4) 日本医療マネジメント学会
    - 理事 (2000年6月～)
    - 2001年第3回大会会長
  - 5) 日本感染症学会
    - 評議員 (1977年4月～2006年4月)
    - 理事 (1993年6月～1997年4月)
    - 編集委員 (1993年6月～1995年4月)
    - 1994年第43回東日本地方会会長
    - 功労会員 (2006年4月～2008年4月)
    - 名誉会員 (2008年4月23日～)
  - 6) 日本胸部外科学会
    - 評議員 (1977年1月～1985年12月)
    - 指導医 (1982年1月～終身 No.17-117)
    - 認定医 (1991年7月～2009年3月 No.5100508)
    - 心臓血管外科名誉専門医 (2010年9月9日～No.46)
  - 7) 日本外科学会
    - 認定医 (1990年12月～)
  - 8) 日本防菌防黴学会
    - 評議員 (1985年6月～)
  - 9) 日本バイオマテリアル学会
    - 評議員 (1988年4月～)
  - 10) 日本麻酔・薬理学会
    - 評議員 (1988年6月～)
    - 理事 (1995年7月～)
  - 11) 日本エム・イー学会
    - 編集委員 (1980年6月～1983年6月)
  - 12) 日本臨床微生物学会
    - 評議員 (1990年1月～)
  - 13) Hospital Infection Society (UK)(1982年～)
    - Editorial Adviser(1985年1月～2011年12月)
    - 1<sup>st</sup> International Conference(1987年) : International Advisory Panel
    - 2<sup>nd</sup> International Conference(1990年) : International Advisory Panel
  - 14) Society of Healthcare Epidemiology of America(USA)(1984年～)
    - SHEA Fellow(2004年7月～)

- 15) Asia Pacific Society of Infection Control(APSIC)(1999年8月～)  
Board(1999年8月～)  
APSIC Journal of Infection Control : Assistant Editor(2000年5月～)
- 16) Deutsche Gesellschaft für Krankenhaus Hygiene : Ehrenmitgliedschaft (2006年4月～)
- 17) 1st East Asian Conference on Infection Control and Prevention(EACIC)  
President(2001年11月～2002年11月)
- 18) The 4<sup>th</sup> Asian Pacific Congress on Antisepsis(APACA)2001年 Vancouver  
Congress Chairman
- 19) The 5<sup>th</sup> Asian Pacific Congress on Antisepsis(APACA)2005年 Cairns  
Congress Chairman
- 20) International Cardiovascular Society(1972年～)
- 21) Society of Healthcare Epidemiology of America(USA)(1984年～)
- 22) The Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology (USA) (1976年～)
- 23) Association for Advancement of Medical Instrumentation (USA) (1976年～2000年)
- 24) The 12th World Forum for Hospital Sterile Supply (WFHSS) 2012年 Osaka  
Congress Chairperson
- 25) All Russian Scientific Society of Epidemiologists, Microbiologists and Parasitologists  
Honorary Member(2017年2月～)